



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2015 **11**



10月8日(木)兵庫県民会館において「2015年度 兵庫県生協大会」を開催。生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」、生協業務に精励した役職員に「兵協連会長表彰」が贈られたあと、「世界は平和になっている～被爆70年に考える～」と題して、前広島市長 秋葉 忠利氏が講演。核なき世界への実現におけたメッセージに、会員生協の組合員、役職員など280名が平和への願いを新たにしました。(関連記事 P.3)



日本生協連 関西地連 事務局長

辻 祥行
(つじ・よしゆき)

『全国生協第13次中期計画、改め、2020年ビジョン第2期中期方針』の策定に向けて

～全国の生協が力をあわせて取り組む「3つの重点課題」～

兵庫県生協連の皆様には、日ごろより日本生協連の運営および諸活動に積極的なご支援ご協力を賜り、あらためて感謝を申し上げます。

日本生協連では、3年毎に「全国生協中期計画」を策定し、全国生協と取り組みを進めてきました。現在、次期（第13次）中期計画に向けた議論が既に始つていますが、今期より、「2020年ビジョン第2期中期方針」に呼称を改め、全国生協の取り組みの「方向性」を示した方針という性格をより明確に示す形で策定をすすめます。

この第2期中期方針で、全国生協が力をあわせて取り組む「3つの重点課題」の一つに「安心し得る地域社会づくりへの参加」があります。これは、2010年ビジョンで掲げた、「地域社会に開かれた生協づくり」から、「地域社会づくりへの参加」へと考え方を発展させ、地域社会への貢献と期待に応えられる組織を目指し、未来における役割を果たし得る組織、社会的存在価値を知らせてゆく生活協同組合の姿があります。

その2020年ビジョンの到達

点と課題の中で、「地域ネットワークと地域社会づくりへの参加」に全国生協が地方自治体や社会福祉協議会と締結した「見守りや災害」に関する協定は、地域の協同組合、NPOなど、様々な団体とのネットワークづくりの推進と合わせ、生協のインフラを活用した配食事業や買い物支援（移動販売）など、地域のニーズに応えた取り組みが展開され、くらしへのお役立ちをより強めるための生協の役割に期待する声も寄せられる一方、誰もが参加でき、様々な参加が広がる組織づくりが、2020年を見据えた地域社会づくりへの参加とそれを実現するための課題でもあります。

今年で8回目となる、「全国生協組合員意識調査」の速報では、組合員の平均年齢が過去最高（55・9↑52・7歳）、「夫婦と子供からなる家族」比率が過去最低（45↑48%）、高齢化にともなう年金生活者の割合が高く、有職組合員が増加するなど、社会およびライフスタイルの変化に適合したビジネスモデルの転換が、更なるビジョンの実現に繋がるよう期待をいたします。

CONTENTS

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 2. 想点 | 5. 単協通信 生活クラブ生活協同組合都市生活／ろっこう医療生活協同組合 |
| 3. 2015年度「兵庫県生協大会」報告 | 6. 協同組合のかけ橋 |
| 4. 第3回理事会 報告／第14回兵庫県企画県民部と兵協連理事会との懇談会 報告／「保健・医療・福祉研究会」奈良「あすなら苑」研修 報告 | 7. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓 |
| | 8. 兵協連「第3回 東日本被災地支援活動」報告／県連日誌／編集後記 |

兵庫県生協大会を開催 協同が息づく兵庫のまちづくり 協同組合がよりよい社会を築きます

10月8日(木)、兵庫県民会館において、2015年度兵庫県生協大会を開催。会員生協の組合員、役員など280名が参加しました。

●毎年10月は「生協強化月間」。全国の生協で「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げるための催し」が行われました。

第一部・記念式典は、尼崎医療生活協同組合常務理事今西恵子さんの司会で始まり、主催者を代表して兵庫県生協連本田英一会長理事が挨拶。引き続き、ご来賓の兵庫県知事井戸敏三様よりご挨拶をいただき、最後に「一人ではできないことをとすれば大きな力となり活動できる」という和歌で協同組合へのエールを送られました。その後、神戸市市民参画推進局市民生活部部長清家久樹様、兵庫県議会議長石川憲幸様より、それぞれ生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。続いておこなわれた表彰式では、永年生協の発展に寄与された5人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました。また、生協業務に精励した28名の役員に「兵庫県生協協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。

「世界は平和になつていゝ被爆70年に考える」と題して、前広島市長秋葉忠利氏が講演。これまでの歴史の中で、世界が核兵器廃絶の方向にゆっくりと歩みをすすめていること、唯一の戦争被爆国として核なき世界の実現への思いについて、ご講演いただきました。また、会員医療生協による「健康チェック」や「(公財)兵庫県健康財団」による健康づくりと疾病予防の取り組み、「兵庫県フェニックス共済」「兵庫労働共済生活協同組合」の共済の紹介のほか、ロビーでは、国連NPT・ニューヨーク行動に参加した「コープこうべ」「神戸医療生協」「尼崎医療生協」のパネル展示、これまでの「ピースアクション平和コンサート」の展示も行われ、多くの参加者でにぎわいました。

第二部は、4月27日からニューヨークで開催された国連NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に合わせて、45生協91人の代表団の一人として参加された尼崎医療生協 山口公典氏がニューヨーク行動を報告。続いて、



井戸 敏三 兵庫県知事



神戸市 清家 久樹 部長



兵庫県議会 石川 憲幸 議長



講演される 秋葉 忠利 氏



医療生協による健康チェック



国連NPT・ニューヨーク行動パネル展示

2015年度 兵庫県生協大会表彰

■兵庫県知事感謝

(順不同・敬称略)

所属生協	氏名
生活協同組合コープこうべ	山添 令子
生活クラブ生活協同組合都市生活	林 佳子
神戸医療生活協同組合	河野しのぶ
宝塚医療生活協同組合	田淵 正俊
尼崎市民共済生活協同組合	岩田 千代

■兵庫県生協連合会会長表彰

(順不同・敬称略)

所属生協	氏名
生活協同組合コープこうべ	尼子 忠敬
生活協同組合コープこうべ	幾田 英之
生活協同組合コープこうべ	粟井 真司
生活協同組合コープこうべ	羽入 一芳
生活協同組合コープこうべ	政平 浩一
生活協同組合コープこうべ	古山みゆき
生活協同組合コープこうべ	木下 健
生活協同組合コープこうべ	佐藤 正典
生活協同組合コープこうべ	水倉 睦夫
生活協同組合コープこうべ	清家 哲男

所属生協	氏名
生活クラブ生活協同組合都市生活	今西 淳美
神戸医療生活協同組合	日高 久明
神戸医療生活協同組合	高井 昌紀
神戸医療生活協同組合	木村 通宏
尼崎医療生活協同組合	土田 由美
尼崎医療生活協同組合	片山 絹代
尼崎医療生活協同組合	泉 香織
宝塚医療生活協同組合	弘中伊津子
姫路医療生活協同組合	木村 文明
姫路医療生活協同組合	笹野真由美
姫路医療生活協同組合	黒田 修
ろっこう医療生活協同組合	霊園 朋子
ろっこう医療生活協同組合	齋藤 秋生
ろっこう医療生活協同組合	加藤嘉津子
ひまわり医療生活協同組合	谷村 梓
神戸市民生活協同組合	池田 知之
西宮市民共済生活協同組合	永田 大
兵庫労働共済生活協同組合	南雲 健一

2015年度 兵庫県生協連 第3回理事会報告

- 【開催日時】 2015年10月5日(月)午後2時55分～4時11分
【開催会場】 兵庫県民会館 12階「1201」
【出席者】 本田会長理事、高橋副会長理事、野間専務理事、
福島、新保、伴、大沼、酒井、嶋、本多、藤井(以上、理事)、
藤田、金丸(以上、監事)

協議事項 (1) 兵協連理事会における議案の運営(案)について

- 報告事項** (1) 分野別生協からの活動報告について
(2) 生協大会(10月8日)について
(3) 第18回兵庫県・兵協連共催「監事研修会」(案)について
(4) 2016年「新春トップセミナー・賀詞交換会1月9日(土)」について
(5) 第14回兵庫県企画県民部と兵協連理事会との懇談会出席状況について
(6) 日生協「南海トラフ巨大地震対応マニュアル近畿版策定検討会(キックオフ)9月4日開催」
および兵協連主催の『大規模災害対策:事業継続(BCPマニュアル策定)研修会』について
(7) 「第1回兵庫 JCC 虹の仲間づくりセミナー(9/18～19)」について
(8) 「第2回東日本被災地支援活動(9/11～13)」について
(9) 「第27回近畿地区生協・行政合同会議(8/31 京都開催)」について
(10) 前回理事会～10月初旬までの兵協連行事・諸活動報告について
(11) 2015年度兵協連主要行事スケジュールについて

第14回兵庫県企画県民部と兵協連理事会との懇談会 報告

- 【開催日時】 2015年10月5日(月) 午後4時30分～5時30分
【開催会場】 兵庫県民会館 12階「1201」
【出席者】 (兵庫県) 岡田局長、梶本課長、雁金副課長、石田主幹、河本主査
(兵協連) 本田会長理事、高橋副会長理事、野間専務理事、福島、新保、伴、大沼、酒井、
嶋、本多、藤井(以上、理事)、藤田、金丸(以上、監事)

- ① 挨拶および県下生協の現況について 兵協連 本田 英一 会長理事
② (地域・職域購買生協)「生活クラブ生活協同組合都市生活の食と子育て支援の取り組み紹介」について
兵協連 大沼 和世 理事(生活クラブ生協都市生活 監事)
(大学生協)「大学生協からのご報告」について
兵協連 高橋 秀行 副会長理事(関西学院大学生協/大手前大学生協 専務理事)
(医療生協)「高齢者の防災・減災～地域と手をつないで～」について
兵協連 福島 哲 理事(尼崎医療生協 専務理事)
(共済生協)「兵庫労働共済生活協同組合(全労済兵庫県本部)の報告」について
兵協連 酒井 行雄 理事(兵庫労働共済生協 理事長)
③ 平成27年度消費者行政等について
兵庫県企画県民部女性生活局長 岡田 由美子 様
④ 意見交換



保健・医療・福祉研究会「あすなら苑」実務研修報告

みんなが安心して暮らせる地域や町に～「10の基本ケア」講座を学ぶ～

10月15日(木)・16日(金)、「保健・医療・福祉研究会」実務研修として、社会福祉法人 協同福祉会 特別養護老人ホーム「あすなら苑」(奈良県大和郡山市)、「10の基本ケア」講座に参加。兵協連会員生協の実務担当者など15名を含む、全国から58名がつどい、講義や実習で学び合いました。これまで、「保健・医療・福祉研究会」では、研究会メンバーによる生協における介護事業についての学習や情報交換を行ってきましたが、今年度の取り組みのひとつとして、ケア担当者の実務力向上をめざすため、今回の講座への参加が実現しました。

まず初めに、協同福祉会 理事長 村城 正 様から、「あすなら苑」の「10の基本ケア」(①換気をする②床に足をつけて座る③トイレに座る④温かい食事をする⑤家庭浴に入る⑥座って会話をする⑦町内におでかけをする⑧夢中になれることをする⑨ケア会議をする⑩ターミナルケアをする)に基づいた、「地域包括ケアシステム」のモデルづくりの取り組みについてお話をうかがいました。その後、チームに分かれて、感染を防ぎながらのおう吐物の処理実習やベッドリハビリ実習、トイレ移乗などに挑戦。チェックポイントを反すうしながら、積極的に実習を行いました。2日目の午前中はスタッフによる各施設での実践報告。午後からは、生活のなかでの動作をスムーズに行うためのゲーム・リハビリ体操や、交替で入浴介助実習を行いました。利用者一人ひとりを大切にスタッフの方々のかめ細やかなサポート体制や、経験を踏まえて成長しながら「基本ケア」は常に変化していることなどを学びました。参加者からは、「本人ができることを取り上げてしまわず、ゆっくりとできることを見極めていきたい」「お年寄りから子どもまで、みんなが安心して暮らせる地域や町づくりで、“地域全体をみる”という使命・信念を実行されているところに感銘を受けました」などの意見が寄せられました。



ルールに沿っておう吐物の処理



ベッドリハビリの講義を熱心に聴く参加者



安全に行うためのチェックポイントを確認しながら入浴介助の講義

生活クラブ生活協同組合都市生活

食品表示を読み解くチカラで 安全な食品を選ぶ

兵庫県消費者トラブル防止事業として、食の講演会「―家族を守る― 食べものを選ぶチカラ―添加物を知り、食品表示を読み解く―を開催しました。

9月30日(水)、神戸市勤労会館多目的ホールを会場に、講師の野本健司さん(神奈川県市民グループ「食の安全を考える会」代表)を招き、食品添加物を中心に表示の実例や変更点の解説、また着色料の実験では人の細胞に模した毛糸への染色の差など、目からも耳からも大変、わかりやすくお話ししていただきました。今回は、兵庫県・神戸市の後援を得て、小学校や公民館などにも案内チラシを配布し、組合員以外の方の



参加も含めて、113名の参加がありました。今年、4月に新食品表示法が施行され、食品表示のルールが一部変わりました。猶予期間があるため、実際に新しい食品表示に変わったものを目にするにはまだ稀ですが、安全な食品を選ぶ上で表示の仕方を知って、読み解くチカラを身につけることは、トラブルを防ぐ上で非常に大切です。兵庫県の補助を得たことで有意義な学習の機会をもつことができました。

(専務理事 角田学)

ろっこう医療生活協同組合

さんまを食べて東北支援 水道筋さんま祭りに1,000人

9月27日(日)、秋晴れの下、「大船渡支援・水道筋さんま祭り」を盛大に開催し、約1,000人以上の人々が来場し、1000人以上の実行委員が奮闘して、さんまを味わいながら、被災地への思いを新たにしました。東日本大震災から4年半になる今



塩加減も良くて旨い!



1,000尾、完売です

も、被災地の復興は道半ば。このイベントは、被災地岩手県大船渡市の被災者の人々への支援を目的に、多くの団体・個人が集まり、企画しました。現地大船渡市から取り寄せたさんま1,000尾を炭火で焼き、皆さんに食べてもらいました。さんまの売り上げは92,000円、会場での募金は45,379円。全て被災地にお送りします。

(通信員 古市賢二)

協同組合のかけ橋

JF

JF 兵庫漁連

ノリ採苗作業 はじまる！ ～兵庫のり研究所では順調に進む～

ノリの陸上採苗作業は、気温が下がってきた9月下旬から行われており、各浜では朝早くから多くの人が作業をする光景を目にすることが出来ます。

JF 兵庫漁連（山田 隆義会長）では、明石市の兵庫のり研究所で9月22日(火)から、淡路のりセンターでは9月26日(土)から作業が始まりました。

カキ殻に付着したノリ胞子を半年以上かけて育てたのち、カキ殻ごと海水の入った水槽に吊るし、水車に巻いた網を回転させて、胞子を付着させるのが採苗作業です。水温や光の量、胞子の状態などでカキ殻から放出される胞子数が変わるため、一網ごとに適正数が付着しているかを顕微鏡で確認しなければならず、適正数が付着した網を外すタイミングは、毎日、同じようにならない難しさがあります。

撮影のため兵庫のり研究所を訪れたこの日（10月5日）は、今秋一番の冷え込みに見舞われた為か、やや鈍い出足となっていました。雲間から日が差し込み始めると、次々に水車の網に付着し、ノリ胞子が付着した網を水車から外したり、新しく網を張ったりするなか、職員は付着度合いを確認するための網切りや水温・照度のチェックなど早朝から活気に溢れていました。

関係者によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約55,000反を仕上げるとのことです。

本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まっています。



胞子の付着した網が次々に外されていきます



顕微鏡での確認作業はスピードと正確性が求められます

JA

JA グループ兵庫

JAグループ兵庫の イメージアップビデオが完成

JA 兵庫中央会は、本県農業への理解とJAグループのイメージアップを図るビデオを作成しました。テーマは「笑顔をつくります」。

JA あわじ島と農産物直売所「美菜恋来屋」に協力いただき、JA職員と農家が協力して新鮮な農作物を収穫する様子や、農産物直売所で新鮮な農産物が販売されている様子が撮影され、JAグループ兵庫が農産物の生産・販売支援を通じて、農家と地域で暮らす人たちの笑顔をつくっていることをアピールします。

このイメージアップビデオは9月19～24日にサンテレビで放送されました。

農業会館1階エレベーターホールのモニターでも放映しています。県外の人を含め、多くの人にJAグループ兵庫の取り組みを知ってもらうために、JAグループ兵庫総合ポータルサイトでもこの動画を公開しています。

また、県内JAにはDVDを配布し、店舗のモニター等を通じて地域でJAが果たす役割を発信し、イメージアップに活用してもらいます。



「JAグループ兵庫は農家と地域で暮らす人たちの笑顔をつくります」とアピール



最近の消費生活相談事例

電気こたつの掛布団の 押し込みによる事故に注意!!

事例

電気こたつから焦げ臭いにおいがしたので見てみると、掛布団が焦げて穴が開いていました。焦げた原因は为什么呢。

【アドバイス】

電気こたつと掛布団を確認したところ、掛布団の焦げた穴は、こたつの金属製ヒーターガードの格子の間隔とほぼ一致していました。こたつを通電し、温度測定テストを行った結果、ヒーター付近で異常に高温になる箇所はなく、ヒーター内側の安全装置（温度過昇防止装置、90～100℃程度）は正常に動作しました。以上のことから推定すると、ポリエステル製の掛布団（耐熱温度120～160℃程度）がこたつのヒーターガード部分に接触していた可能性が高く、その間に蓄熱したことにより、接触部分の温度が異常に上昇し、掛布団の側生地と中綿が溶融したと考えられます。

こたつの掛布団や洗濯後の衣類などの可燃物をこたつの中に入れ、ヒーターガード部分に近接したままにすると、可燃物が発火するおそれがあります。また、電気こたつの電源コードがこたつの脚に踏まれたまま使用すると、コードの一部が断線状態になり、出火することがあります。

電気こたつを使用する際は、特に次の点に注意してください。①掛布団や座椅子、座布団がこたつ内のヒーターガード部分に触れないようにしてください。②こたつの中で衣類を乾かさなくてください。③電源コードがこたつの脚などの下敷きになった状態で使用しないでください。④電源コードを折り曲げたり、ねじったりしないでください。（兵庫県生活科学総合センター）

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



兵協連だよりをご覧のみなさま。こんにちは。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江です。

朝と晩の空気が冷たくなってきて、秋の穏やかな日差しは、だんだんと遠ざかり、気が付けば、1年の終わりが目の前に迫ってきました。こんな秋の気持ちのよい季節にも関わらず、なんだか、気ばかり焦ってしまい、妙な汗をかいてしまいます。

さて、少し前のお話ですが、8月30日（日）に「不招待勧誘禁止と消費者団体の役割」というシンポジウムを開催しました。まだまだ暑い時で、もうだいたい前のことのように思い出します。シンポの名称だけを見ると、難しいお題のような気がします。が、そんなことはありません。今、法律改正の議論が行われており、その中で、「頼んでもいないのに、勝手に来る訪問販売を規制しよう」という議論がなされています。人が嫌がっているにも関わらず、無理やり自宅を訪れて商品を販売してよいはずがありません。それを法律として規制しましょうということなのです。少しでも嫌な思いをする人が減るように、そして被害に遭う方が減るように、法律もそのような改正をしていくべきだと思います。

（ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記）



連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

みんなで支え合う、これからも・・・

～兵協連 第3回「東日本被災地支援活動」報告～

兵庫県生協連では、会員生協とともに宮城県亘理郡山元町を中心に定期的、継続的な支援活動を行っています。今年度3回目の支援活動を、10月9日(金)～11日(日)に実施。山元町の「やまもと花釜秋まつり」の支援に、関西学院大学生協/大手前大学生協 専務理事の高橋秀行 兵協連副会長理事、コープこうべの寺尾和馬さん、たじま医療生協の佐伯久雄さん、兵庫県生協連 事務局 中尾ちとせ の4名が参加しました。

9日夜、宮城県柴田郡柴田町の「支援センター」に到着。翌日の秋まつりの支援活動の打ち合わせをしました。

10日午前、秋まつりの会場となる山元町 JR 山下駅跡に集合。みやぎ県南医療生協のみなさんをはじめ、花釜区長、医学生、生協の役職員など、約70人の支援者が集まりました。浜通り医療生協の放射線の線量測定車や健康チェック、舞台では地域の方々の「フラダンス」「手品」などの発表のほか、全国からの支援への感謝の気持ちを込めて、震災を風化させないために山元町の方々が作られた曲「この町で」に合わせての「ストレッチダンス」、花釜音頭、山元音頭など、約400人の来場者がともに楽しみました。また、最後のビンゴ大会では全国の医療生協から届けられた景品で、大いに盛り上がりました。その後、中浜小学校跡、JR 坂元駅跡、山元町災害公営住宅等を視察しました。

11日は、福島県楮葉町～富岡町周辺を訪れ、JR 常磐線 竜田駅や避難指示区域の現状を視察しました。

宮城から福島へ。常磐道を南下しながら、車窓から見える「放射線量」のデジタル表示が刻一刻と変わっていく。「4.7マイクロシーベルト」…。晴天の秋の日に、人の気配のない景色がずっと続いていることに違和感を感じていた。朝が来て、夜が来る・・・ごくありふれた毎日なのに、なぜ、こんな“人の住めない町”になったのか・・・という憤りを感じていた。遠くに見える被災家屋の庭にも、また道路のすぐそばにも、真っ黒な除染袋があちこちに山積みになっている。黒い袋のままでは紫外線でボロボロになるので、緑のシートを掛けているところも。立入りが制限されている区域では、4年半が経った今も時間が止まったままだ。「やまもと花釜秋まつり」出演者の女性の方と少しお話ができた。「(津波で)屋根の上に庭の肥料袋が乗っていたの。下着1枚、残らなかった・・・。でも、最近、やっと泣けるようになった」。胸がいっぱいになった。

これからも、兵協連の東日本被災地支援活動は被災地での経験を多くの方に語り継ぎ、次年度の支援活動につなげていきます。(兵協連 事務局)



やまもと花釜秋まつり支援者のみなさん



福島県富岡町の廃棄物処理施設の除染土のう袋

県連日誌

- 11月5日(木) 兵協連 第18回監事研修会 (県民会館 902)
- 11月10日(火) 兵協連 第4回生協活動委員会 (県民会館 ばら)
- 11月11日(水) 兵協連 第2回共済生協部会 研修会 (県民会館 ばら)
- 11月17日(火) 兵協連 第2回医療生協部会 研修会 (県民会館 ばら)
- 11月25日(水) 兵協連 第3回生活問題研究会 研修会 (大阪)
- 11月26日(木) 兵協連 第2回大学生協部会 (県民会館 ぼたん)
- 11月27日(金) 兵協連 第2回保健・医療・福祉研究会 (県民会館 ばら)
- 11月28日(土)～29日(日) 兵庫JCC 第2回「虹の仲間づくりセミナー」(三木市)

編集後記

「なんだか最近、食がすすむなあ」と思っていたら、いつのまにか、すっかり秋になっていました(?)。先日、初めて、山芋の球芽、秋の味覚むかごのごはんを炊いてみました。ホクホクの食感、幸せな気分になります。♪☆生活クラブ都市生活さんの「食の講演会」に参加。食品表示や添加物について学びました(P5参照)。実験では、体内とほぼ同じ環境にした「生成りの毛糸玉」。お湯でといた赤や青の「かき氷」のシロップに浸けられ、色素がどれくらい残るのかを検証。数十分後、シロップの種類によっては着色料の色素はすべて毛糸(つまりみため)の中が吸着。コップの中の色は、なんと透明に!「オー!」参加者からは小さなどよめき。好き嫌いがなく、いろんなものを食べる私のお腹の中は、どんな色になっているのか心配(?)。安全・安心な食品を選ぶのは、なかなか大変です。(中尾)